

私の履歴書

釜本 邦茂

④

に商業科があったことだ。商業科の受験は学区の縛りがなかった。

コーチの森貞男先生だった。振り返ると本当に自分は周りに恵まれていたと思う。中1でサッカーを教わった大久保忠先生は東京教育大サッカー部を出たばかり。森先生も紫光クラブでばりばりプレーしていた。小中高と紫光人脈の中で厳しくも大事に育てても

選手権は森孝慈がいる広島の修道に負けて準優勝に終わったが、第4回アジアユース選手権の日本代表に二村、長岡両先輩とともに選ばれた。

順風だったがテングになりはしなかった。監督の村山先生がとにかく厳しかった。社会科の教員でサッカー経験は

一つ上の学年に二村昭雄、長岡義一という太秦小―蜂ヶ岡中―山城高―早大と全く同じ道を歩んだ、家も近所のおっかない先輩がいた。中学1年で球拾いに飽きて練習をサボるようになった時、「何しとんねん」と強引に連れ戻してくれたのもこの先輩たち。試合中、相手

とはいえ、受験のハードルは高かった。小学校時代、母に「邦茂は6年間でどれくらい勉強したん」と聞かれ、「15分」と答えた私である。中学の成績もクラス52人中48番目の劣等生だった。

頼りにしたのは勉強のでき

なかった。身長も150センチくらいしかないが、傘の柄を杖代わりに常に持っていて、気を抜いたプレーをすると「小さくなれ」。小柄な先生

山城高校

得点量産 国体も優勝

先生厳しくテングにならず

の足を平気で蹴飛ばすような方たちだから逆らえるわけがない。

サッカーにのめりこむと進る高校生の姉だ。後に大阪外学先は1958年度の冬の高大（現在の大阪大）からJT校選手権を制したばかりの山城以外に考えられなかった。同じエリアに嘉楽中という強豪があり、蜂ヶ岡中と合体して山城のサッカー部になるから京都で無敵だった。学区制が厳しい京都では蜂ヶ岡中の生徒は大概、嵯峨野高の普通科に進む。姉の美佐子もそうだった。助かったのは山城高

らったと感謝している。高校でも得点を量産した。高1（60年）の秋、山城単独で出た国体に優勝。優勝候補筆頭の広大付属を沈めたのは私のロングシュートだった。高2の夏のユース選考地域対抗戦で山城勢中心の関西選抜は5試合で21得点したが、11点は私が挙げた。正月の高校

怒られたこともある。こぼれ球とか、どきどき紛れのゴールはいかん、ということだった。「過程も含め、もっと美しいゴール……。頭を悩ませた。

蜂ヶ岡中は強かった。神戸と大阪も交えた三都市大会の常連になるなど京阪神にその名をとどろかせた。技巧派FWの二村さんに一度ボールを預け、リターンを2列目から駆け上がる私がシュートに変

だった。助かったのは山城高

たのは監督の村山康裕先生と

（日本サッカー協会顧問）



恩師時代の中央が後列、森貞男先生。下が筆者

なかつた。身長も150センチくらいしかないが、傘の柄を杖代わりに常に持っていて、気を抜いたプレーをすると「小さくなれ」。小柄な先生